



215

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年6月16日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

東京大空襲 元原告団の思い

16日(日)＝1、3面

今週の「迫る」は、空襲被害の救済を国に求めて戦う人々の姿を追います。

戦争により負傷した軍人軍属には恩給が、遺族には年金などが支給されてきました。しかし空襲で死亡した民間人にはなんの補償もありません。民間被害に何の救済もないのはおかしい、と東京大空襲などの遺族らが司法に訴えましたが、司法は国民みんなが被

害者だから我慢すべきという「戦争被害受忍論」と、立法が解決すべきだという「立法裁量論」をタテに、原告の主張を退けています。

では矛先を向けられた立法(国会)は何をしてきたかという...。いまだ法案提出には至らず、被害者は「期待」と「失望」を繰り返してきました。

被害者は多くがもう80歳過

ぎ。残された時間は少ないのが現実です。現在、ガザやパレスチナでは戦争が続き、多くの民間人が命を失い住む場所を追われています。日本は軍事予算を年々増やしています。「自分たちのためではなく、子や孫の世代が平和に暮らせるような世の中にしなければならぬ」。そんな思いが彼らを突き動かしています。



空襲被害者の救済法案の成立を訴える河合節子さん

迫る

そこが聞きたい「スポーツ賭博」

16日(日)＝くらしナビ面

米大リーグ・ドジャースの大谷翔平選手の元通訳が銀行詐欺などの罪に問われた事件は、背景にあったスポーツ賭博のリスクを浮き彫りにしました。海外では合法化してい

る国もありますが、日本で「解禁」される可能性はあるのでしょうか。

国内外のスポーツ事情に詳しい小林至・桜美林大学教授(スポーツ産業論)＝写真＝に、

スポーツ賭博の現状について聞きました。



論点 神への挑戦

生命科学の発展が止まりません。老化にあらがひ、寿命を延ばし、いずれは不老不死を実現するかもしれない。生命の設計図とされるゲノムを書き換え、新しい生物を合成することも不可能ではなくなってきました。ただ、それに伴う倫理や社会の問題は残ったままです。人は

このまま、生命を自在に操るすべを手にするのでしょうか。米ベンチャー「ターン・バイオテックノロジーズ」のアンニャ・クラマーCEO、総合地球環境学研究所の山極寿一所長、ジャーナリストの須田桃子さんに考えを聞きました。

21日(金) 11オピニオン面

特集 ワイド 一時保護所のリアル^上_下

17日(月)、18日(火)＝夕刊2面

親からの虐待で子供が命を落とす痛ましい事件が繰り返されています。その度に話題になるのが一時保護所です。児童相談所が設置する施設で、家庭から一時的に離れる必要が

ある子供が暮らします。子供はどのように過ごし、運営上の課題は何なのでしょう。関東地方にある3カ所の保護所の職員3人(1人は元職)に座談会形式で語ってもらい

ました。保護所のリアルを2回に分けて報告します。



東京都江戸川区の一時保護所

「ヤングケアラ」の支援を明文化した改正子ども・若者育成支援推進法が6月5日に成立しました。国や自治体に当事者の支援を促す狙いですが、毎日新聞はヤングケアラの当事者の声や生活の実態などを2020年3月から継続的に伝え、記事は書籍化もされました。「声なき声に耳を傾け、社会に伝えていく」ことで人々の暮らしを良い方向に変えていく。それが報道機関の役割だと再認識しました。(立花健一)

竹橋の窓のこゝろ 編集後記

